



暑熱対策について

諸説ありますが、乳牛の適温帯は約4~21℃です。気温がそれ以上になると暑熱ストレスがかかり、27℃以上では乳量減少が非常に大きくなります。正常体温である38.6℃から0.6℃上昇することにより、産乳量が1.8kg減るといわれており、湿度も高いと暑熱ストレスはさらに大きくなります。

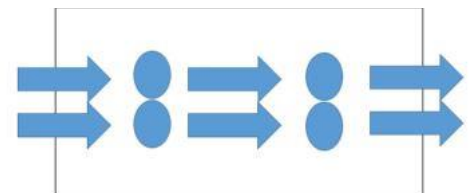
暑熱ストレスは乾物摂取量の低下から乳量、乳成分の低下をもたらし、繁殖成績の悪化にもつながります。

□牛舎環境管理

- ✓ 牛舎内に温湿度計やヒートストレスメーター(写真1)を設置し、暑熱対策を行う目安にする。
- ✓ 換気の方法にもよるが、牛舎の窓・戸をすべて開放し、防鳥ネットを張る。
- ✓ 寒冷紗やすだれなどを設置して、直射日光を遮る。
- ✓ 送風機等を使用する場合は、牛舎内の空気を一方向に流すように設置し(図1)、風の通りをふさぐ障害物は撤去する。
- ✓ 送風機の角度を調整し、多くの風を牛にあてる(通夜間)。
- ✓ 換気扇をフル稼働させて牛舎内の風通しをよくし、湿度を下げる。



写真1 ヒートストレスメーター



舎外の雑草(障害物)除去等も有効

図1 送風機設置例

□飼料・飲水環境管理

- ✓ 良質粗飼料、嗜好性のよいエサを給与し、掃き寄せをこまめに行う。
- ✓ 涼しい時間帯に採食できるように、夕方のエサの給与量を増やす。
- ✓ 固形塩の自由採食や重曹の添加によりミネラルの補給を行う。
- ✓ 飲水施設をこまめに清掃し、きれいな状態を保つ(写真2)。



写真2 きれいなウォーターカップ

□放牧管理

- ✓ 日陰がある放牧地の利用や夜間放牧を検討する。
- ✓ 水が飲める場所を増やす(水槽の増設など)。
- ✓ 不食過繁草が増えてくるので、掃除刈りを行う

情報満載の
ホームページ
QRコードからGO!

